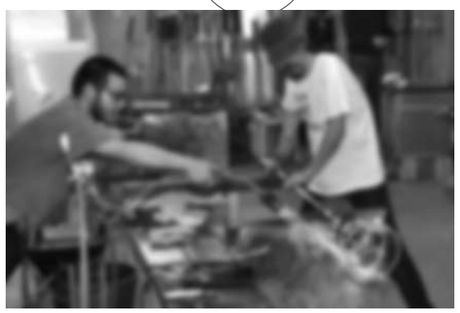


ガラス造形の世界を堪能

2/2　馬越寿さん 吹きガラス公開製作

あづみ野ガラス工房（豊科南穂高）の「吹きガラス公開制作」が２月２日、初めて行われました。当日は、工房の卒房生でガラス工芸家の馬越寿（うまこしひさし）さん（神奈川県相模原市）が高さ50㌢ほどの大きな足付きグラスを製作しました。会場では、市民やガラス工芸を学ぶ大学生など約 30 人が観覧。溶けたガラスが姿を変えて作品が完成すると大きな拍手が起きました。同工房の宮本崇輝（みやもとたかき）さんは「今後も多くの人に手作りガラスの魅力を伝えていきたい」と話してくれました。

103 人が腕試し

1/27　安曇野検定

市の自然や歴史・文化・伝統について広く知ってもらうため、２回目の安曇野検定が１月 27 日、市内３会場で行われ、71 人が受験しました。試験は一般の部、ジュニアの部に分かれ、それぞれ自然科学編、歴史・文化・伝統編の２分野について問題が出題されました。このうち穂高交流学習センター「みらい」では一般の部を受験する 31 人が、各分野 100 問の難問に挑戦しました。28 日には三郷小学校でも児童 32 人が自然科学編を受験しました。当日の問題と解答は、市ホームページに掲載しています。

恩師や級友と再会　楽しいひととき

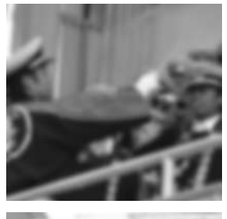
1/13　安曇野市成人式

安曇野市成人式が１月 13 日、安曇野スイス村サンモリッツ（豊科南穂高）で開かれました。この日は、747 人の新成人が出席し、人生の大きな節目に誓いを新たにしました。

式典では、宮澤市長が「社会と自らの関わりを今一度見つめ直し、一層教養を深め、自己を磨いてください」とあいさつ。その後、新成人を代表して三郷中出身の唐木洸（からきひかる）さん（長野市）が「12 月に、選挙権を得て初めての選挙がありました。これからは自分たちの力・声で国を変えられるという自覚を持って、人生を歩んでいきたい」と決意を述べました。

式終了後には、懐かしい「給食」を食べながらの交流会と中学時代のフォトムービーの上映、早春賦愛唱会の皆さんによる合唱が行われました。

なお、本年度、市内では 1,041 人（男性 505 人、女性 536 人）が成人を迎えました。



一年の無火災を誓う

1/13　安曇野市消防団出初式

恒例の市消防団出初式が１月 13 日、穂高会館で開かれ、参加した約 600 人の団員が防火・防災の決意を新たにしました。寺畑佳司（てらはたよしじ）団長は式辞の中で「昨年、建物火災が減少したのは活動の大きな成果。これからも安全・確実・迅速を念頭に、地域に密着した活動をしていきたい。年々難しくなっている団員確保についても地域の皆さんと考えていきたい」と話しました。式典では、無火災表彰や功績のあった団員への表彰、退団者表彰が行われました。式典後、分列行進が穂高会館と穂高駅前までの間約 1.3㌔で行われ、沿道に集まった市民が見守る中、音楽喇叭（らっぱ）隊の行進曲に合わせて団員と消防車両 20 台が行進を披露しました。

豊かな実りとなる年に

1/4　農産物応援キャラクターが豊作を祈願

安曇野市農業再生協議会（板花守夫会長）は１月４日、穂高神社で安曇野産農産物の宣伝を行いました。当日は、農産物応援キャラクターが本年の豊作祈願と、神社を訪れた皆さんと記念撮影をしました。応援キャラクターは平成 23 年に製作。安曇野の特産品であるリンゴ、コメ、ワサビ、ソバをかたどった「あぷふーる」・「らいすん」・「わさっぴ」・「そばっぴ」の４体が、イベントなどで宣伝活動を行っています。このうち「そばっぴ」は、当初の名前からより親しみやすいよう昨年 12 月に改名したばかり。改名後、４体そろって初めての活動になりました。

雪の中、福俵がまちを巡る

1/14　豊科成相区と新田区で福俵引き

正月の伝統行事、豊科の成相区と新田区の「福俵引き」が、１月 14 日に行われました。当日は各区 30 人ほどの若衆が、雪が降る中、威勢よく福俵を引き回しました。 この行事は道祖神祭りの一環として行われ、道祖神（福神）が宿った「福俵」を引き回すことで、地域の家々にも福が訪れるとされています。区内を回った福俵は、昨年慶事のあった家庭や会社などに納められ、本年は店舗を新築した菓子店と新聞販売店にそれぞれ納められました。 成相区の親方を務めた忠地拓（ただちたく）さん（豊科）は「無事に福を納めることができました。これからもまちの冬の風物詩を若い人で盛り上げていきたい」と話してくれました。